



# 園だより



平成28年1月27日  
佛教大学附属幼稚園

## こぼしてほしいもの

園長 藤堂俊英

私の幼稚園時代、もう65年ほど前のことですが、登園の日には小さな袋にその日の給食用のお米を入れて持って行きました。ある日の給食に、ハヤシライスだったかカレーライスだったか覚えていませんが、何か赤い食べたことのないものが添えられていました。帰宅して母に聞くと、それは福神漬でした。幼稚園で食べた給食でただ一つ今も覚えているのは、あのアクセントのような赤い漬物の色と初めて食べたその味です。

話を現在に戻します。幼稚園の給食の日には、時々ひよこ組から年長組まで、保育室をのぞいてみます。当たり前で無理もないことですが、机の上のご飯粒やおかずのこぼし具合は、学年ごとに違います。でも同じなのは元気で個性的な食べっぷりです。

ところで「こぼす」とか「こぼれる」を漢字で表わす場合、「零(れい)」とか「溢(いつ)」とか「滴(てき)」とか「翻(ほん)」という字が使われます。ちょっと変わったところでは、茶道で茶碗を洗った水を受ける容器のことをいう「こぼし」は「建水」と書きます。それはともかく、「こぼす」という語は、口や器から飲み物や食べ物を流れ出させたり落としたりすることを表すだけでなく、安堵の笑顔が見られることや、悲しみや感動の涙が流れること、愚痴や不平を言うことにも使われます。次にあげるのは関洋子さんの「いつか」という詩です。

母さんは あとまわし  
いつも いつも あとまわし  
自分のことは あとまわし  
お風呂も 寝るのも あとまわし  
母さんは いつも こぼして歩く  
笑顔や やさしさを  
いつか 母さんを  
母さんだけで いっぱいに してあげたい



上にあげた「こぼす」を表す四つの漢字の中で、母さんがこぼして歩く笑顔ややさしさを表すのにふさわしい字はどれでしょうか。「零」の字は「清らかなしずく」を表しますが、数のゼロという意味もあります。そうすると「零」は、無私の親心からこぼれ出るものを表わすことが出来ます。「溢」の字は、器の中がいっぱいになって外へあふれ出る様子を表します。そうすると「溢」は、内から外へ自然と湧き出る親心を表わすことが出来ます。「滴」の字は、一か所に集まりまとまった水がポトリと垂れる様子を表します。そうすると「滴」は、時を重ね集められた親心が発露する姿を表すことが出来ます。「翻」の字には、もともと平らに広げるという意味があります。そうすると「翻」は、隅々にまで広がる親心を表すことができます。こうしてみると、どれも母さんがこぼす笑顔ややさしさを表すのにふさわしい文字に思えてきます。

私たちの暮らしには、こぼさないほうがいいものがある反面、笑顔ややさしさのように是非こぼしてほしいものもあります。それが愚痴や不平などを凌駕していくとき、私たちの暮らしは安心や信頼に満ちたものになっていきます。